

PAT-NO: JP02002300980A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2002300980 A
TITLE: STOOL INSIDE BATHTUB
PUBN-DATE: October 15, 2002

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
ONODERA, MASANORI	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
ONODERA MASANORI	N/A

APPL-NO: JP2001145639

APPL-DATE: April 6, 2001

INT-CL (IPC): A47K003/12

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To stabilize a stool at a bathtub bottom part, to easily use it at the time of carrying out half body bathing or the like and to keep a bathroom image as a place of relaxation.

SOLUTION: By incorporating stainless steel to the leg part of a wooden stool or filling the material of large specified gravity such as concrete in the leg part in the case of the stool made of resin, the stool is used as the one not to be floated even in side a bathtub. Also, there is the possibility of mass production at a low cost.

COPYRIGHT: (C)2002,JPO

BEST AVAILABLE COPY

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-300980

(P2002-300980A)

(43) 公開日 平成14年10月15日 (2002.10.15)

(51) Int.Cl.⁷
A 47 K 3/12

識別記号

F I
A 47 K 3/12

マーク (参考)
2D032

審査請求 未請求 請求項の数2 書面 (全3頁)

(21) 出願番号 特願2001-145639(P2001-145639)

(22) 出願日 平成13年4月6日 (2001.4.6)

(71) 出願人 599114368

小野寺 雅憲
東京都西多摩郡日の出町大字平井2196番地
427号

(72) 発明者 小野寺 雅憲

東京都西多摩郡日の出町大字平井2196番地
427号

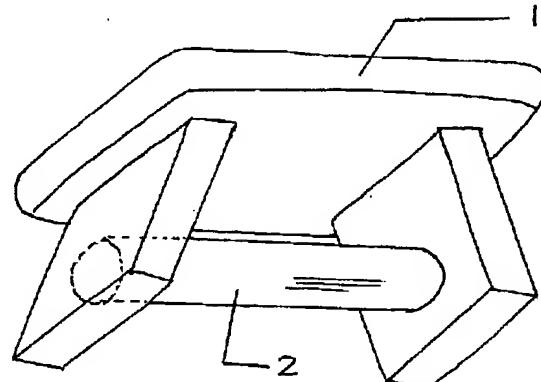
F ターム(参考) 2D032 DA08

(54) 【発明の名称】 浴槽内腰かけ

(57) 【要約】

【課題】 従来よりある浴室用イスは、浴槽内では浮かび上がりてしまい、半身浴などのために浴槽内で使用するには不適当であった。また従来、半身浴用として考案されたイスも、安定させるための「部材」に具体性がなく、いまだ一般的に使用されるには至っていない。本発明の課題は、浴槽内で浮かばない木製の腰かけや樹脂製の腰かけを、半身浴などの入浴法に使用普及されるよう、実用性や製造コストの面で考案するのが課題である。

【解決手段】 木製腰かけの脚部にステンレスを組み込んだり、樹脂製腰かけの場合は、脚部にコンクリートなどの比重の重い材料を充填することにより、浴槽内でも浮かばない腰かけとして使用できるようになった。また安価に量産できる可能性もできた。



【特許請求の範囲】

【請求項1】木製の浴室用イスに、比重の重いステンレス製の部材を組み込み、浴槽内でも浮かぶことなく、安定してすわれるようにした「浴槽内腰かけ」(図1) (図2)

【請求項2】ポリプロピレンなどの樹脂材によって成型される浴室用イスに、コンクリートなどの比重の重い材料を充填し、浴槽内でも浮かぶことなく安定してすわれるようにした「浴槽内腰かけ」(図3) (図4)

【発明の詳細な説明】

【0001】[従来の技術] 健康維持に効果があるとされる半身浴も、現在の浴室用イスでは浴槽から浮かびあがってしまい不便である。また従来、考案された半身浴用イスも、磁石で浮力に対抗したり、イス本体の材質を金属にしたりと木製イスの良さを生かせる「浴槽内腰かけ」はできなかった。また一般的な浴室用イスでは、すわると座高が高くなり、湯船から上半身が多く露出して半身浴には不適当であった。このことは既存の浴室用イスを浴槽内に持ち込み、単に「浴槽内用」とするには無理があることを意味する。

【0002】[発明が解決しようとする課題] 腰かけが浴槽底部で安定を保ち、半身浴などを実施する際、簡便に使用できること、かつ憩いの場としての浴室イメージを保持できることが課題である。また入浴用品として、購入しやすい製造コストを維持し、半身浴が日常において容易に実施できるようになることが課題である。

【0003】[課題を解決するための手段] 木製の腰かけを製造する際、その脚部に重りとしてステンレスを組み込む。比重の重いステンレスを脚部の下方に埋め込むことにより、腰かけはお湯の入った浴槽の底部でも安定

を保つことができる。(図1) なお、同様の効果はステンレスパイプ内部にコンクリートを充填しても得ることができる。(図2) また、ポリプロピレンなどの樹脂で安価な腰かけを製造する際は、比重の重いコンクリートなどをその脚部に充填し、樹脂でコーティングをする。これらのことにより、浴槽内でも浮かばない腰かけの製造コストはより下がることができる。(図3) (図4)

【0004】[発明の効果] 腰かけの脚部にステンレスを組み込むことにより、木製の腰かけでも浴槽内で浮かぶことがなくなった。また樹脂製の腰かけでも、比重の重いコンクリートなどをその脚部に充填することにより、浴槽内でも浮かばない腰かけの製造が、安価にできる可能性ができた。これらのことと、普段の入浴や半身浴本来の目的であるリラックスの効果を、多くの人が手軽に享受できるようになる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明「請求項1」の下から見た透視斜視図である。

【図2】本発明「請求項1」の部分図である。

【図3】本発明「請求項2」の透視斜視図である。

【図4】本発明「請求項2」の脚部の図である。

【符号の説明】

1は木製浴室腰かけ

2はステンレス製の部材

3はステンレスパイプ

4は充填されたコンクリート

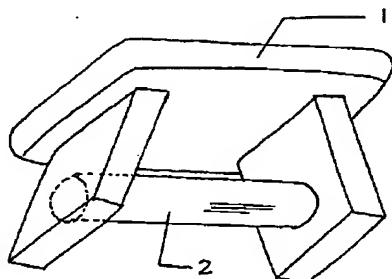
5はキャップ

6は樹脂製の浴室腰かけ

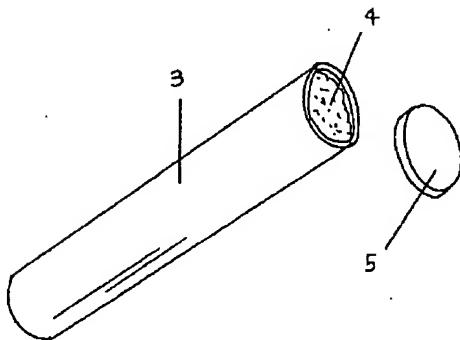
7は充填されたコンクリート

8はキャップ

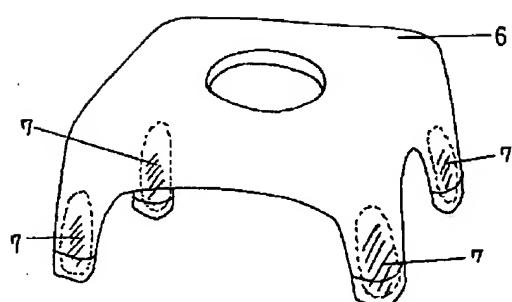
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

